



あけまして
おめでとうござります

あけましておめでとうござります。謹んで昭和六十一年の輝やかしい門出に当たり、心から町民の皆様に御祝詞を申し上げます。

御承知の通り、今吾が国は内にあっては財政再建、行政改革の推進、外にあっては国際貿易摩擦に象徴されますが、極めて厳しい



四国が島でなくなる
日をめざして

町長渡辺盛男

「虎は千里を行つて、千里を
帰る」という諺があります。一
般には、「勢いの盛んなこと」の
例えとして用いられます。も
う一つ別の解釈があるようです。
さて、その虎は何をしに千里の
道をあわてて帰るのでしょうか。
実は、虎は自分の子供のこと
が心配で戻るのだといいます。
恐ろしいものの代表のよ
うに言われている虎です
が、大変に子供を大切に
するのだそうです。「虎の
子」と言う言葉もこのあたりか
ら来たのでしょうか。

虎はエトの動物たちのうち、
日本に棲んでいない唯一の動物
です。もともと、辰(竜)もいま
せんが、これは想像上の動物で
すからどこにもいません。

虎は中国をはじめ、東南アジ
アなどには広く分布しています

から、エトのつくられた中国で
は、なじみのある動物だったの
です。

もつとも、虎は日本で見るこ
とができるにもかかわらず、
その存在はかなり早くから知ら
れています。七世紀までに書
かれた日本書紀にはすでにその
名が出ていますし、天武天皇の

虎の尾をふむ、「虎口のがれ
る」などいろいろあります。い
ずれも虎が強いもの、危険なも
のとして登場しています。

では虎の巻とはどういうこと
かと調べてみましたが、中国古
米の兵法書、つまり、いくさの
仕方を教える書物に由来する言
葉のようでした。

ところで、最近は乱伐
や焼畑農業によつて熱帯
雨林が減少し、森林に棲
む虎の生存も脅かされて
います。本当に恐ろしいのは、
虎よりも人間の所業だといふ
とでしようか。

虎年を契機に自然保護の大切
さをもう一度みんなで考えたい
ものですね。

く、夫々の権能を尊重しつゝ一つ心になって住民のために、町勢発展に真摯な努力が傾倒されていることは、誠に御同慶に堪へません。お蔭様で公債費指数も本年度中に一九%台に回復の見込みであり、町勢を占うと、

が町大豊の繁栄と皆様方の御支援をお願いするものであります。

終りになりましたが、

が町大豊の繁栄と皆様方の御健勝を御祈念申上
げ年頭における私のご
一あつと致します。

の開発等、人と物との交流を図る施策の具体的な展開こそが私共に課せられた緊迫の課題であると考へます。町民各位の御理解と御協力を切に願う所以であります。さて、きびしい状況の中ではありますが、昭和六十一年度における本町の財政はきわめて順調に進展をみつかります。就中議会と

に昭和六十一年の春を迎えるに当たり、私共は皆様九千町民の町行政に寄る期待と信頼に応ええるべく、新鮮なる発想、そして大胆なる実行をもって空の目的である「豊かで明るい地域社会」建設のため命の努力を致す所存であります。

草場一輔

10

高速化時代に備えて 生産基盤の確立を

昭和六十一年の成人式は、十五日午前十時半から開かれいたします。今年の該当者は六十四名、十一月末登録者で、昭和四十年四月二日から昭和四十一年四月一日生れの方です。で、各人に通知がいっておりますが、まだの方は中央公民館に連絡して下さい。町内在住の方も申し出があされ、大豊町の式典に参加できず。

式典は農工センター文化ホール
成人の日

一月十五日

く本
なけ
たるところに見受けられる
のであります。私はこれを
転換して本町をそ菜園芸の
一大産地化にすることが極
めて重要だつて思ひます。
は、議会、執行部、町役場
休業園、遊休農地は町内
のところに見受けられる
のであります。私はこれを
転換して本町をそ菜園芸の
走る輝しい年頭のごと
おめでたすことを心から
おめでたすことを心から

域がれてす。かつて本県全体の三分の一の産量を誇った養蚕はたはた横瀬（糸価）の低迷等により衰退の一途を辿り、今や本町の産量は減少し、うのあります。

暮らばなりません。それは私
しそは、大豊の自然の条件を生
かした食物である高冷地野
菜（園芸を含む）の産地化
を図ること以外にないと思
います。しかし虎穴に入
ります。又、前門の虎
拒いで後門の狼に進むと
います。しかし虎穴に入

農村
に農
もま
産業
といわ
れる確
固たる生
き。それ
までに本
町に地場
時代が到
来するの
でありま
す。それま
でに、國
の勢の前進
のため、内
閣も短時間
で結ばれ、い
くやる、四國
が島でなくなる
農村、に農
もまた、産業
といわれる確
固たる生き
ます。それま
でに、本町に
地場時代が
到来するの
であります。
これまでに、
國の勢の前進
のため、内閣
も短時間で
結ばれ、いく
やる、四國が
島でなくなる
農村に農も
また、産業
といわれる確
固たる生き
ます。町民各位
の指導・ご教
示を大切にお
こなして、町
の発展に貢
献して下さい。

ではなりません。昭和六十年には七年完成予定されている高速自動車道が供用を開始されれば本県は瀬戸内海経済圏に組み込まれるに至ります。

と思うのであります。
又、高齢化社会における
本町のあり方も重要な課題
一つでもあります。医療
保健、生きがいの問題等
急に取り組んでまいらな
ればなりません。私は昨
三月定例会におきまして

四国のいのち嶺北会議

21世紀・嶺北の姿さぐる。町長パネラーで活躍



町長さんもパネラーで活躍



基調講演

嶺北林業の進路

講師 森 岩 夫 氏

森先生は今林業のおかれている問題は、もはや、曲がり角なんて、生やさしい問題でなく、ひん死の重傷と云はざるを得ないとして、日本林業の起死回生策はあるのか。を広い視野と豊富な情報の中で、

間近に控えた、高速道時代、嶺北は、我が大豊町はどう進むのか、去る十一月十四日、嶺北は一つの旗印のもと、「四国のいのち・嶺北会議」と題して、土佐町環境改善センターに於て、地域政策フォーラム講演、パネルディスカッションが開かれた。町長、渡辺盛男も行政代表として参加、討議では、林業、観光から過疎、結婚、後継者育成まで、地域を取り巻くさまざまな問題が、あらゆる視点から論議された。大豊町からも熱心な方が、約六十余名聴講、会場は三百五十人を越す人の熱気にも包まれ、立ち見の方も多數いた。会議では様々な提言、ヒント、新たな課題が生れた。こうした提言やヒントをこれから嶺北の活性化にどうつなげていくか。それは、嶺北住民すべてに課せられた大きな責任ではないでしょうか。

自助努力で需要拡大
嶺北林業の未来に光を

生かせ地域の資源
パネル討議に熱氣あふれる



特別講演

嶺北地域における

山 岳 観 光

講師 阿比留勝利氏

自助努力で需要の拡大を図ることが不可欠といい、自助努力とは、地域がまとまって産地を形成し、嶺北五ヶ町村が、林業運命共同体となることが、地域林業の振興策である。そのためには、林業に確信、自信を持っています。豊かな創造力と、エネルギー・シナ行

動力だと結んだ。幸い嶺北

視点から話を進めた。

現在の観光、嶺北の観光立地条件、高速交通体系が

観光に与える影響、以上の観光は、個性化、多様化

その他の生活文化、歴史にかかる資源があり、こ

嶺北は運命共同体
ここ15年が勝負時
白熱パネル討議



披露された土佐町のチョンガリ節

の時代」と位置づけ、異なる地域の生活文化に触れるような新しい観光の方向にある。地域ぐるみでそれをみせるのが、新しい観光地のイメージであると、地域づくりとしての観光、という新しい視点での観光振興としては、一級の、吉野川、石鎚、早明浦ダム、瓶ヶ森があり、大豊では国宝豊榮寺があり、観光客の誘致力は十分ある。その他にも生活文化、歴史にかかる資源があり、こ



四度優勝旗は西峰チームへ



開闢大賽に重量をかけてもも長さん議長に引き綱引

第14回町民体育祭

文化の日、農村広場に町民集う

り、この嶺北の地にいくつもの先端産業が立地し、特時間半に亘り、パネルディスカッション、「山に生きる」が開催された。大豊町長は行政代表として、司会表「高橋治さん」、青年代表表「田岡司さん、婦人代表表「沢田里美」さん六人のメンバーによって活発なそして貴重な討議が交された。特に青年代表の「田岡」さんが、今すぐ取り組むべきことは、人材育成のための教育だと訴えたのを、受けて、大豊町長は、ふる里教育を推進し二十一年世紀にむけて、又来るべき十五年が大きな勝負時である

午後二時半から約二

時間半に亘り、パネルディスカッション、「山に生きる」が開催された。大豊町長は行政代表として、司会表「高橋治さん」、青年代表表「田岡司さん、婦人代表表「沢田里美」さん六人のメンバーによって活発なそして貴重な討議が交された。特に青年代表の「田岡」さんが、今すぐ取り組むべきことは、人材育成のための教育だと訴えたのを、受けて、大豊町長は、ふる里教育を推進し二十一年世紀にむけて、又来るべき十五年が大きな勝負時である

午後二時半から約二

